

講義2

11:00～12:00

経営資源 【人】

組織マネジメントとボランティアの育成と活用についてー

講師 藤井 誠 氏(IEC代表)

スポーツクラブの種類

- ・ 任意団体（個人事業ベース）
 - + : いい加減 = スピードがある、カリスマ性で成り立つ
 - : いい加減すぎる、カリスマ性に頼りすぎる（影響力が大きすぎて持続性が危惧）
- ・ NPO法人（各団体のよい点をMIXしたような形態）
 - + : 寄付金、マンパワー（ボランティア）を得ることができる、情報公開による公正性
- ・ 社団、財団法人
 - + : 信用がある、行政とのパイプがしっかりしている
 - : 行政の関与が強く主体性が発揮できない
- ・ 企業体
 - + : 投資、資金調達などのビジネススキルを導入できる
 - : 寄付なし、全て自己責任、常にお金が必要

設立間もなくは任意団体がよい 融通がきく

海外のNPOでは組織内部に企業体を作っている

米国NPO団体 証券会社と連携して資産を運用して財源確保につとめている

クラブ構成員

- ・ 代表・理事（役員）
 - 外部取締役、ビジネスマン、リスクマネジメント、会計士、医師（無償）
- ・ 事務局長（プロデューサー）
- ・ 課長（コーディネーター）
- ・ 係長（アシスタントコーディネーター）

・ 職員（スタッフ／常勤、非常勤） 派遣、臨時、アルバイト
理事はアドバイザーであり評価を担当する
理事会での決定ばかりを待つような組織は駄目、現場での迅速な意志決定が必要
ProVono プログラム：イギリス 専門性を生かしたボランティア、
自社でチャレンジする前のテストとしてNPOを活用
ボランティアはあくまで無償

組織は生き物である

必要に応じて大きくなったり小さくなったりする

常にうえを目指せるような仕組みであること

必要な知識と経験とスキルを持ってもらわなければいけない

日本古来の平等性を捨て、適材適所でドーナツ型の人員配置を

組織をどう運営していくか？

住民参加のパターンとして

最悪のパターン

行政主体の説明会

ちょっとましなパターン

ワークショップによる住民参加型意見交換

意見を聞いておしまい（反映されない）

強制的な役割分担

行政がワークショップを開催

発起人チーム（ワーキンググループ）を形成（裏側では委員会・理事会）を作成

WGには学びが必要（生涯学習まちづくり）知識・スキル

学びのプロセスにおけるエンパワーメントが重要

コーディネーターの必要性

実行委員会とWGの二階建てで事業を進める どこかでそれを合体させる

チーム 平等

コーディネーター（スーパーバイザー）

実行委員会には講演やビデオ等できっちり説明していかなければいけない

専門者や実践者を呼んで説明をする

ニーズのないところにニーズを作るには苦労がいる

口の中に無理矢理押し込もうとしても駄目

困っていない、飢えていない

自分の地域のニーズに合わせて徐々に進めていくことが必要